

(資料2)

品川区の各地区の現況と課題

【品川地区】

- 小学校:5校 中学校:1校 義務教育学校:1校 計7校

品川地区は、湾岸部に立ち並んでいた倉庫が大規模マンションに生まれ変わるなど、環境の変化が激しく、人口増加も続いています。特に就学人口は当面は増えていくことが見込まれており、学校の受け入れ態勢に配慮する必要があります。なお地区に所在する学校は、小中一貫校（現義務教育学校）への転換も含め、比較的改築が進んでいます。

【大崎地区】

- 小学校:5校 中学校:1校 義務教育学校:1校 計7校

大崎地区は、大崎地区再開発事業の進捗により、人口増加が続いており、これからも再開発が予定されていることから、学校施設の整備にも取り組んできましたが、今後は目黒駅前地区に整備されている大規模住宅の入居が始まることから、学校の受け入れにさらに万全を期す必要があると思われます。

地区内に所在する学校は、概ね改築が完了してきており、残された学校も就学人口の増加が見込まれていることから、十分な検討が必要と考えます。

【大井・八潮地区】

- 小学校:7校 中学校:3校 義務教育学校:2校 計12校

大井地区は、特に湾岸部での人口増加が激しくなっており、その中でも、勝島では大規模なマンションの建設が相次ぎ、就学人口も大幅に増加しています。そのような状況を踏まえ、学校の受け入れ態勢の早急な対応が必要です。

なお、この地区に所在する学校は改築がほとんど行われていないため、施設の老朽度や就学人口の動向に注意し、計画的な改築も必要となります。

### 【荏原東地区】

○ 小学校:6校 中学校:2校 義務教育学校:1校 計9校

荏原東地区は、比較的小規模な小学校の多い地域です。また、今後の人口推計でも大幅な増加は見込まれておらず、就学人口も落ち着いた推移が予想されています。

この地区の学校は、小中一貫校（現義務教育学校）整備の際に、4つの小中学校が統合されたこともあり、学校の数は他の地区よりも少なくなっています。

また、特に小学校が改築されていない状況があり、今後綿密な改築計画が求められています。

### 【荏原西地区】

○ 小学校:8校 中学校:2校 義務教育学校:1校 計11校

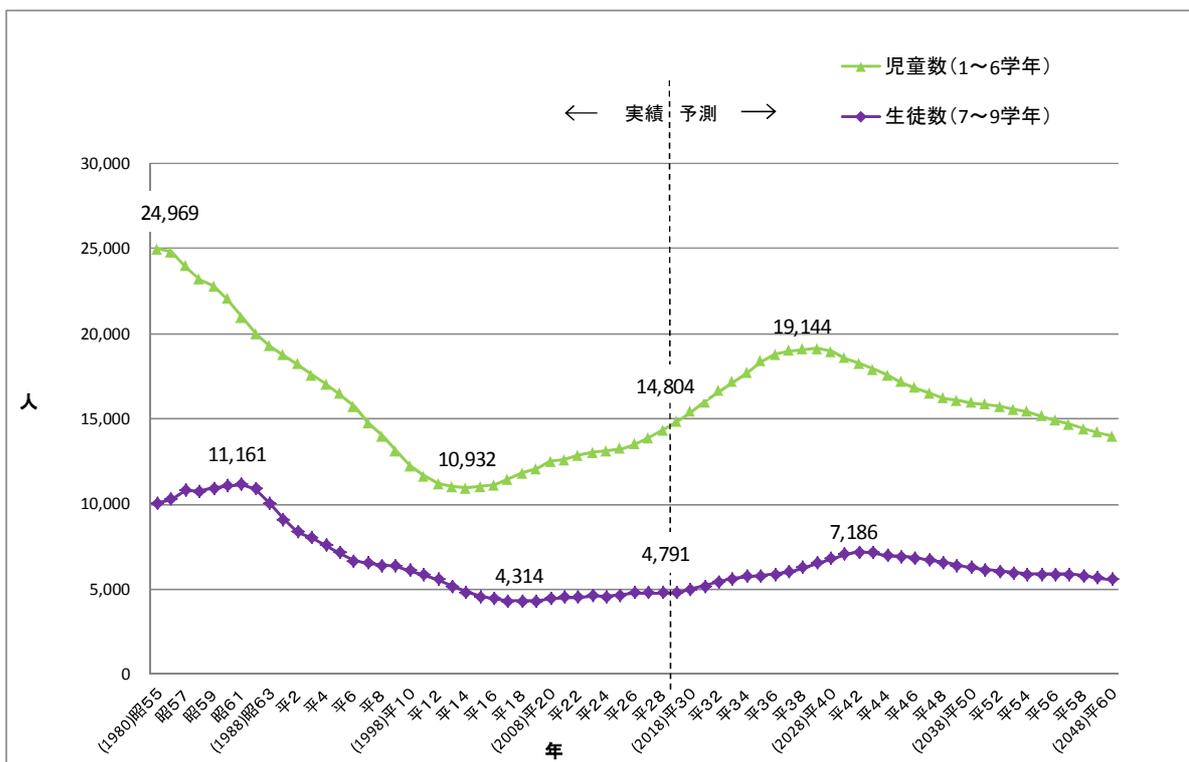
荏原西地区は、他の地区に比べて学校数が多く、小規模から中規模の学校が近距離に集中している状況が見られます。この地区では荏原東地区と同様、人口の激しい動きは予想されていませんが、武蔵小山地区では再開発事業が進行しており、当該地域の児童の受け入れについて、準備を進める必要があります。また、特定の学校に児童・生徒が集中するなど、学校の受け入れに偏りが生じています。

この地区に所在する学校は、順次改築が進んでおり、今後も計画的な改築が望まれます。

(1) 品川区立学校の児童・生徒数の推移および将来推計

- 品川区立学校の1学年～6学年（小学校・義務教育学校前期課程）の全児童数および7学年～9学年（中学校・義務教育学校後期課程）の全生徒数の昭和55年から現在までの推移についてみると、児童数は昭和55(1980)年(24,969人)、生徒数は昭和61(1986)年(11,161人)が最も多く、その後減少に向かい、児童数は平成14(2002)年(10,932人)、生徒数は平成17(2005)年(4,314人)それぞれ最小値となるが、その後は児童数・生徒数ともに上昇に転じ、現在まで増加傾向が続いている。
- 児童数・生徒数の将来推計では、今後10年前後は増加傾向が続き、児童数は平成39(2027)年(19,144人)、生徒数は平成42(2030)年(7,186人)にそれぞれピークを迎え、その後は減少していく見込みである。

品川区立学校全体の児童数・生徒数の推移および推計値



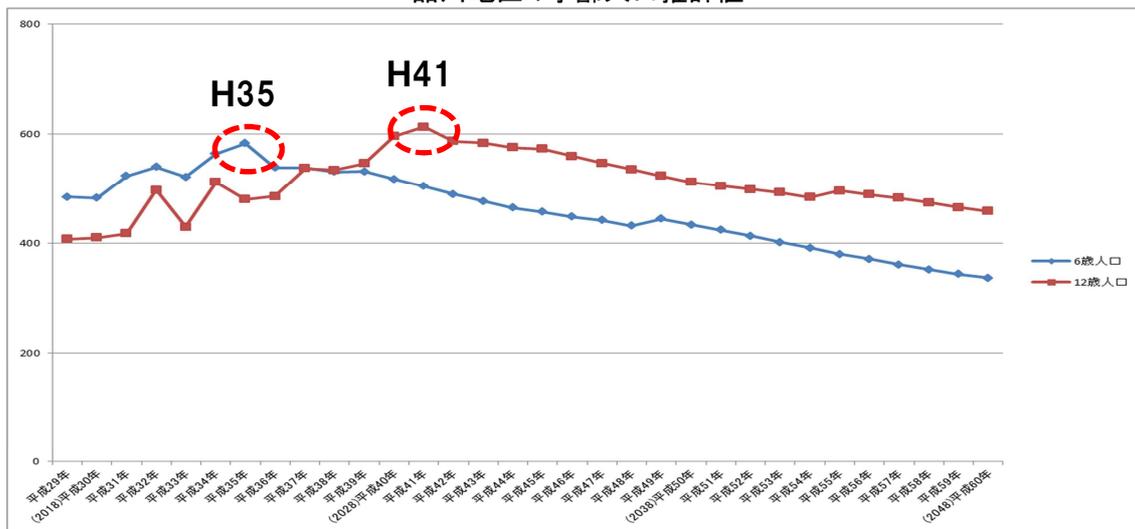
(注)平成29年までは実績値、平成30年以降は6歳および12歳の区内学齢人口の将来推計を基に、区立以外の学校等に通う割合を除く、1～6学年の全児童数および7～9学年の全生徒数を一定の条件の下で算出した予測値。各年4月1日現在。

(2) 各地区の学齢人口の将来推計

① 品川地区

- 品川地区の6歳及び12歳人口についてみると、6歳人口は平成35(2023)年(584人)に、12歳人口は平成41(2029)年(613人)にそれぞれピーク人口を迎える。

品川地区の学齢人口推計値

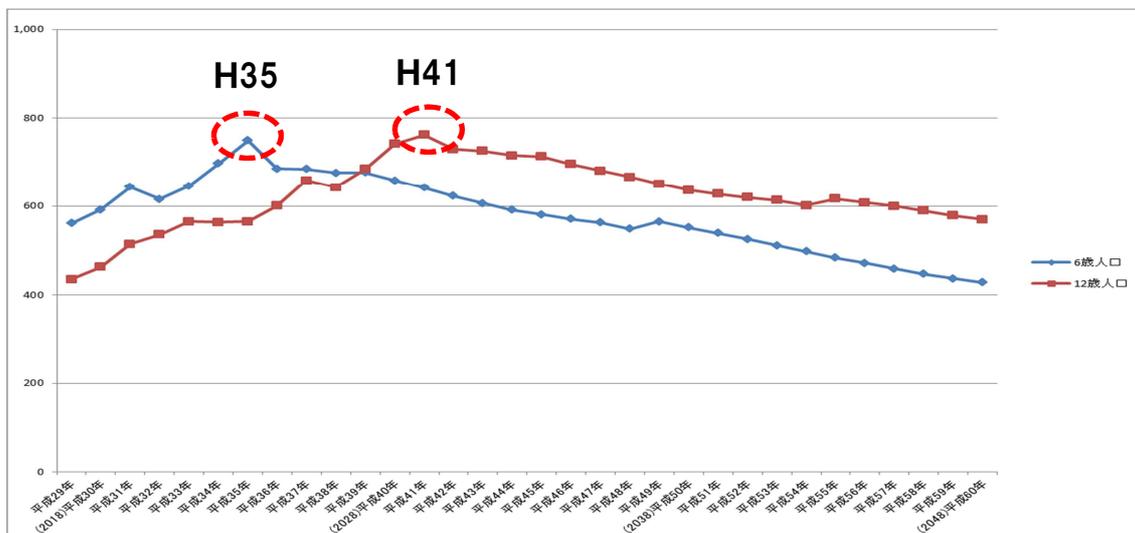


(注) 平成29年は実績値。各年4月1日現在 (以下同様)

② 大崎地区

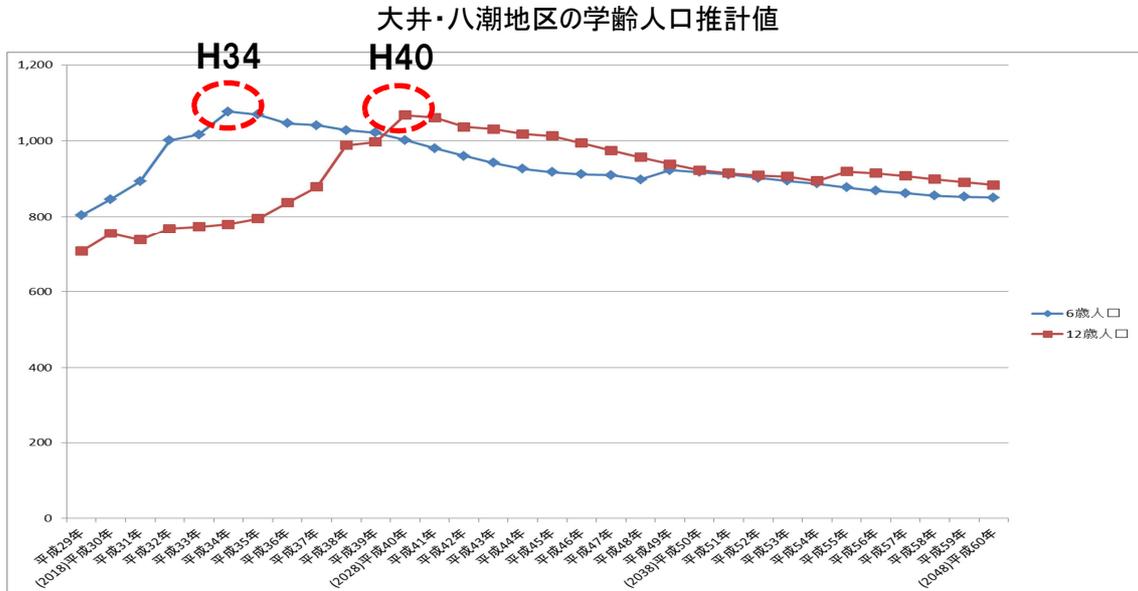
- 大崎地区の6歳及び12歳人口についてみると、6歳人口は平成35(2023)年(749人)に、12歳人口は平成41(2029)年(762人)にそれぞれピーク人口を迎える。

大崎地区の学齢人口推計値



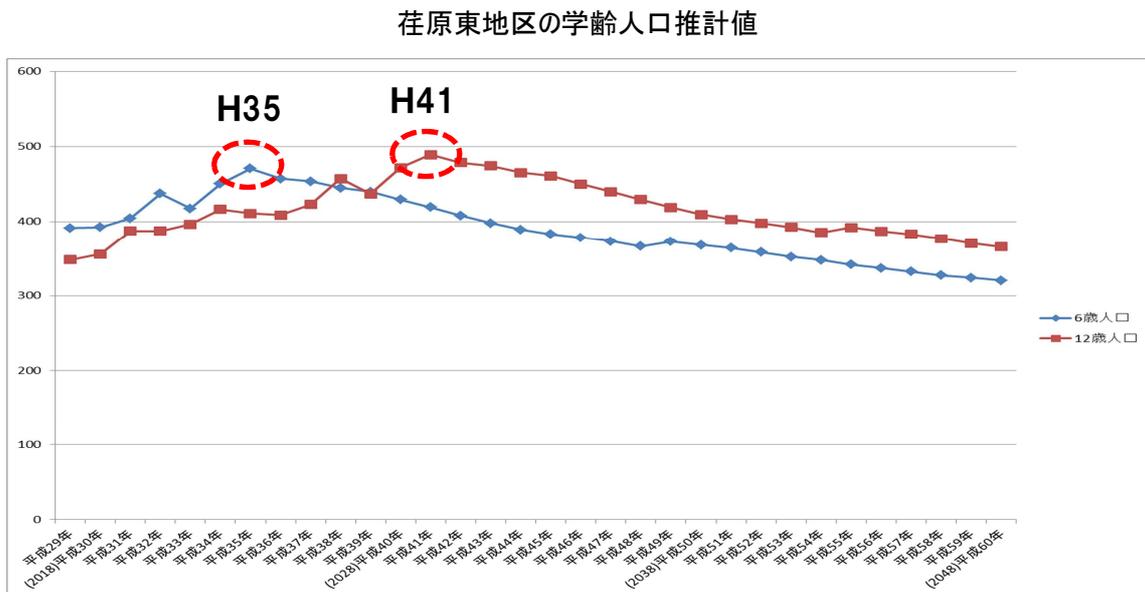
③ 大井・八潮地区

- ・大井・八潮地区の6歳及び12歳人口についてみると、6歳人口は平成34(2022)年 (1,077人) に、12歳人口は平成40(2028)年 (1,068人) にそれぞれピーク人口を迎える。



④ 荏原東地区

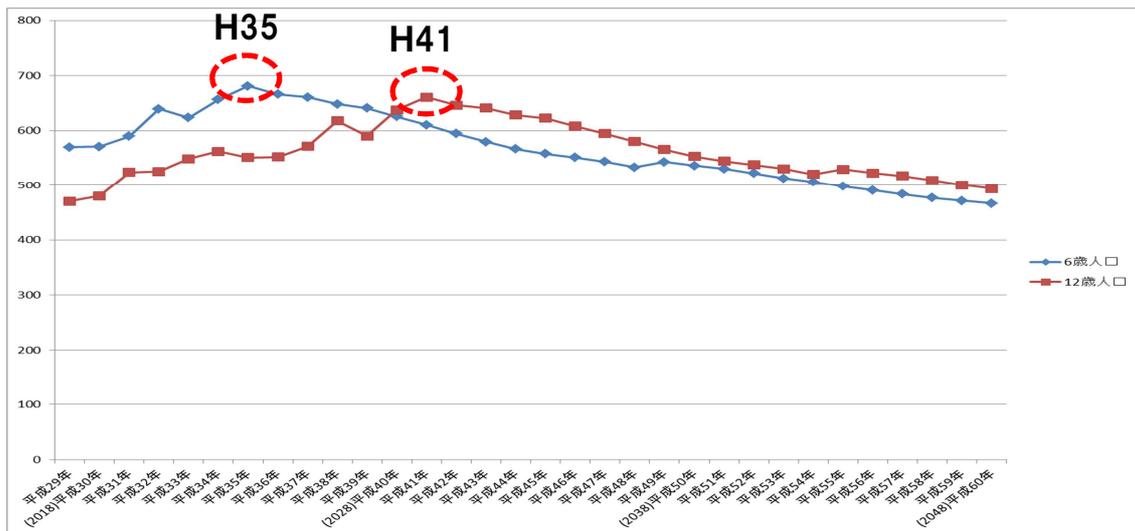
- ・荏原西地区の6歳及び12歳人口についてみると、6歳人口は平成35(2023)年 (471人) に、12歳人口は平成41(2029)年 (489人) にそれぞれピーク人口を迎える。



⑤ 荏原西地区

- 荏原西地区の6歳及び12歳人口についてみると、6歳人口は平成35(2023)年(681人)に、12歳人口は平成41(2029)年(661人)にそれぞれピーク人口を迎える。

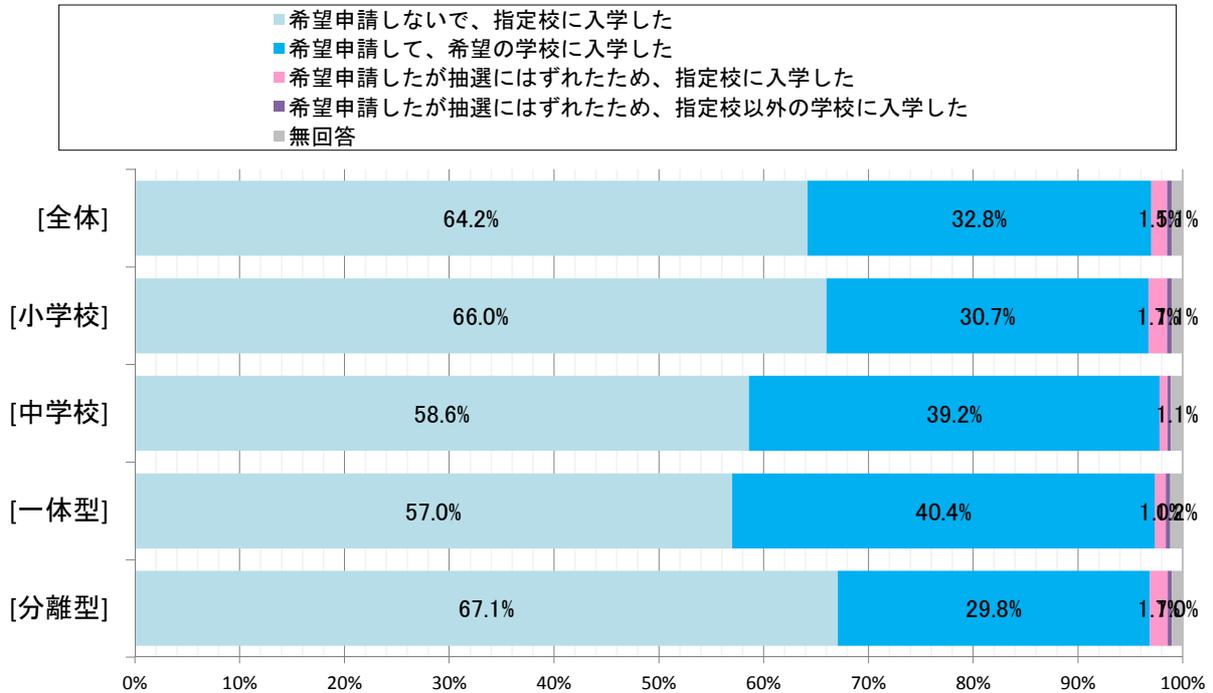
荏原西地区の学齢人口推計値



## 平成27年度 保護者アンケート結果 (抜粋) (資料3)

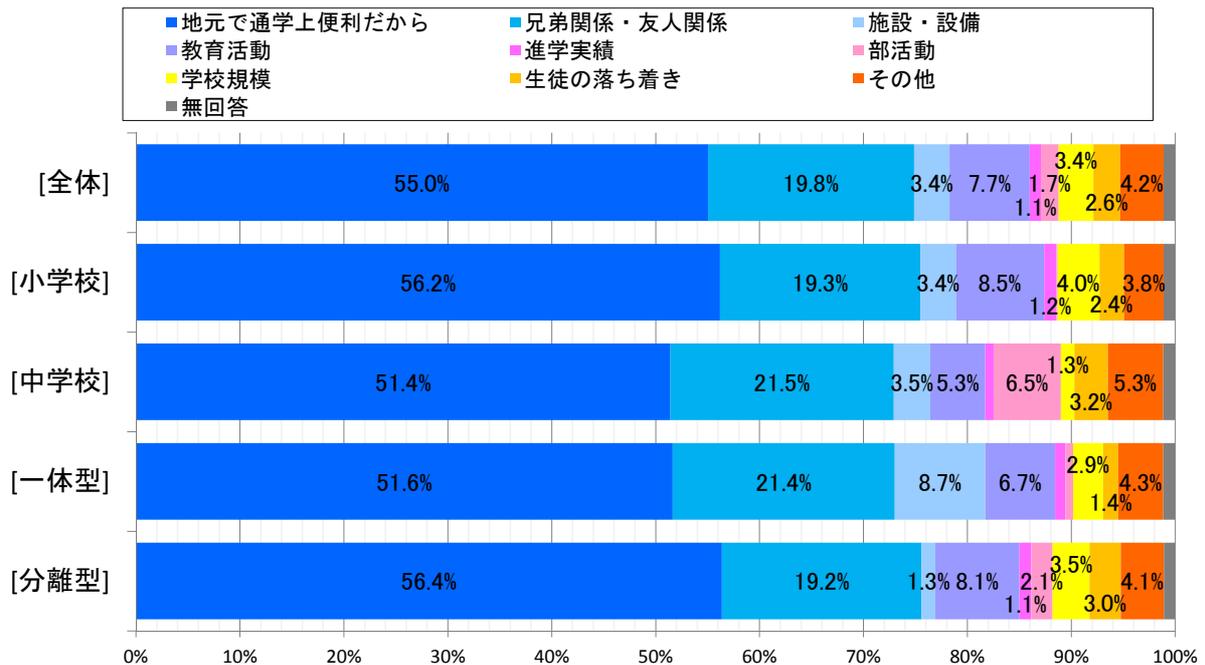
### [B. お子さんが通っている学校の選択について]

設問23 学校を選択する際、指定校以外を希望申請しましたか。また、結果どこに入学しましたか。



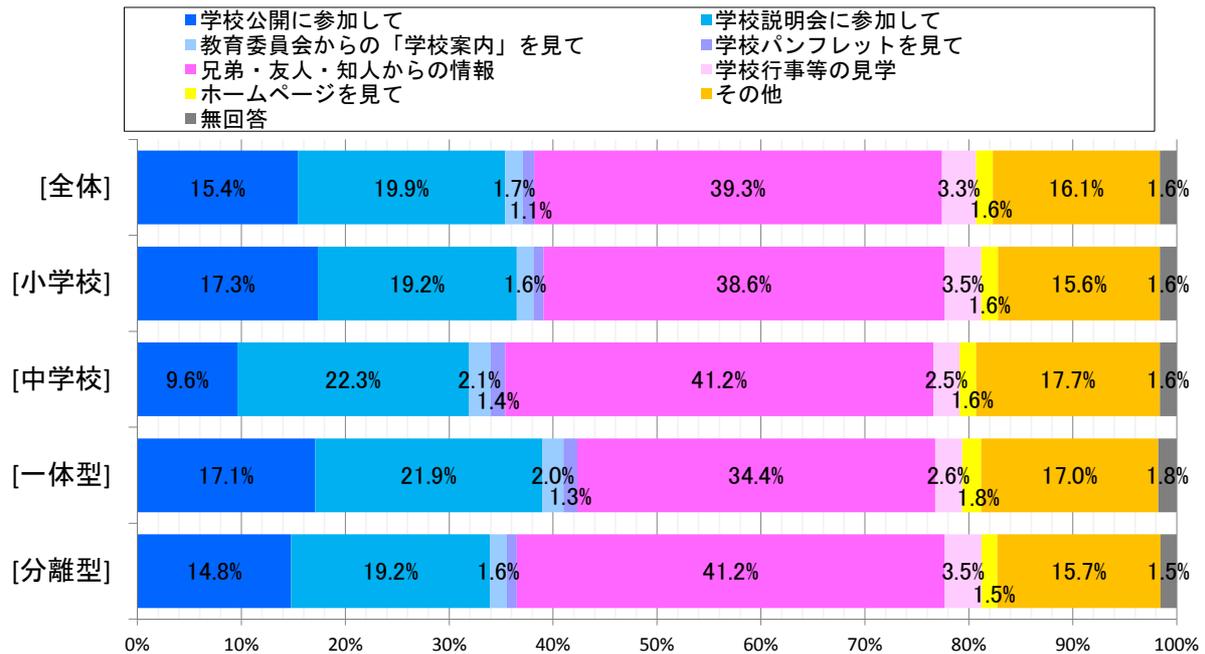
小学校・中学校ともに、学校選択制を利用し、希望申請により指定校以外に入学した割合は25%以上である。また、一体型では40.4%、分離型では29.8%が希望申請して、希望の学校に入学している。

設問24 学校を選択する際、最も重視したことを1つだけ選んでください。



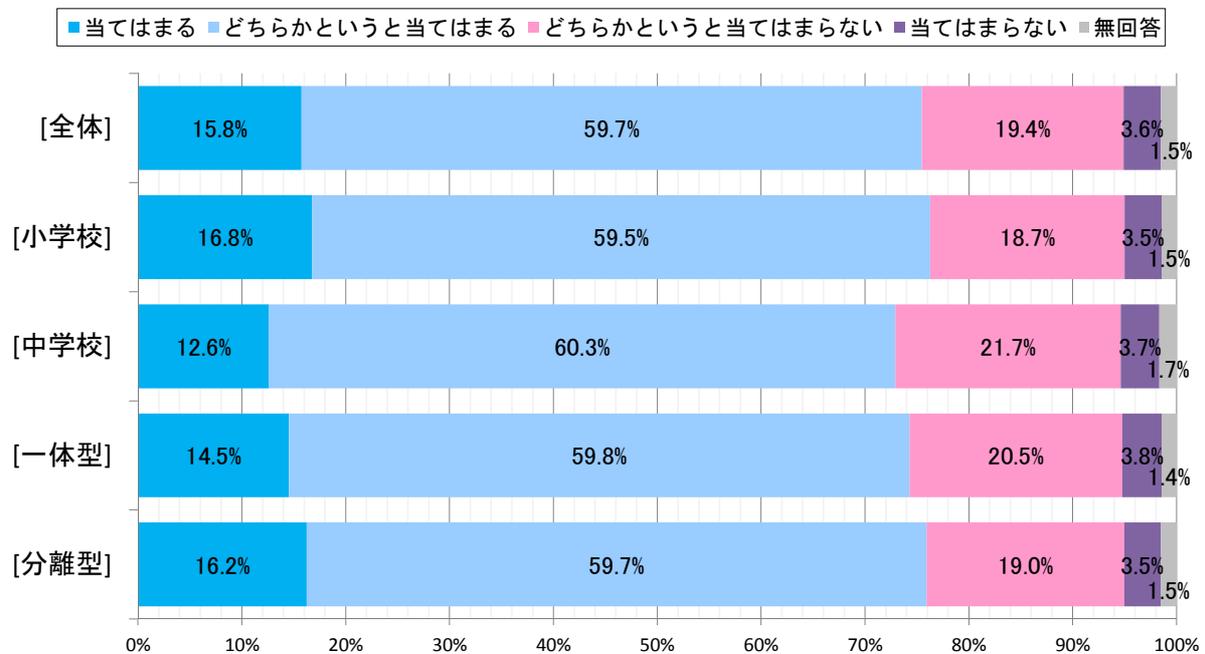
学校選択の理由として最も多いのは、小学校・中学校、一体型・分離型ともに「地元で通学上便利だから」である。次に多いのは、「兄弟関係・友人関係」となっている。

設問25 学校を選択する際、最も重視した情報を1つだけ選んでください。



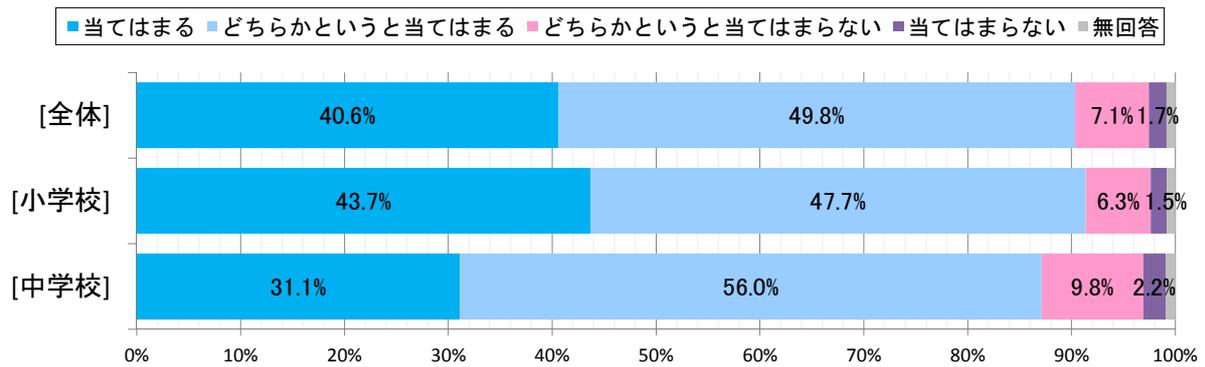
小学校・中学校、一体型・分離型ともに、学校選択をする際に最も重視した情報は「兄弟・友人・知人からの情報」で、次いで「学校説明会」の順になっている。

設問26 現在公開されている学校情報は学校を選択するには十分な内容である。



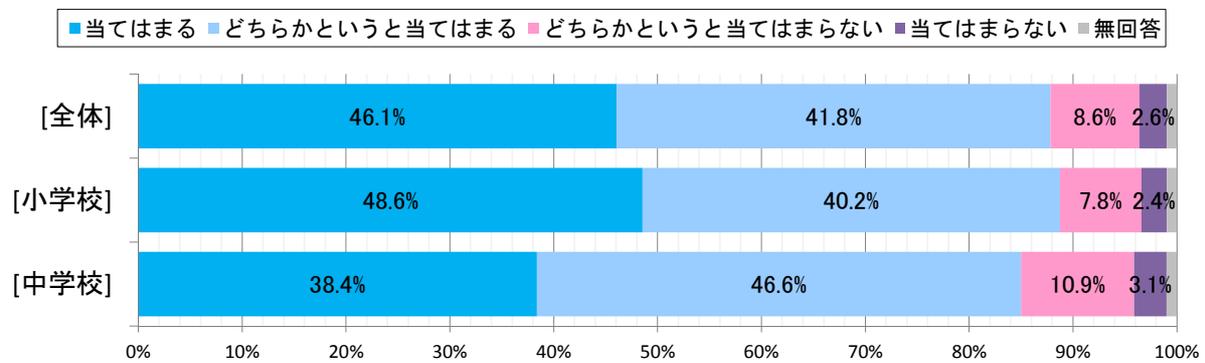
現在公開されている学校情報は学校を選択するには十分な内容であると考えている保護者は、小学校では76.3%、中学校では72.9%である。また、一体型は74.3%、分離型は75.9%である。

設問27 現在通っている学校に満足している。



小学校では91.4%、中学校では87.1%の保護者が、現在通っている学校に満足している。

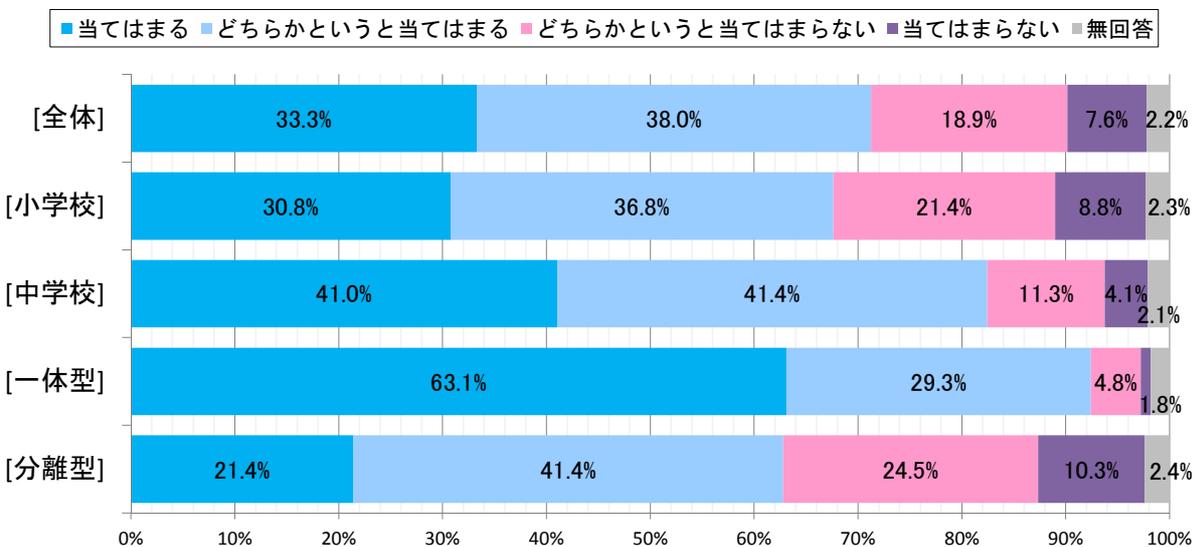
設問28 学校を選択することについて、保護者の責任を感じている。



学校を選択することに責任を感じている保護者は、小学校では88.8%、中学校では85.0%である。

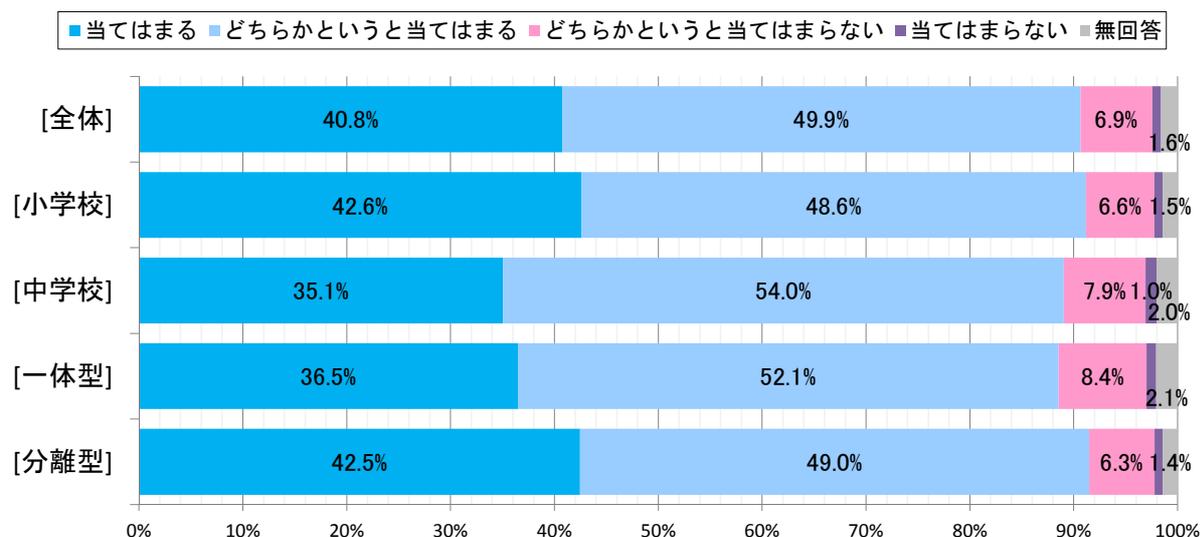
**[C. 学校に対する保護者のお考えについて]**

設問32 お子さんの通っている小学校(中学校)は中学校(小学校)と連携している。



小学校と中学校が連携していると感じている保護者は、全体で71.3%である。とりわけ中学校では82.4%、一体型では92.4%と連携していると感じている保護者が多い。

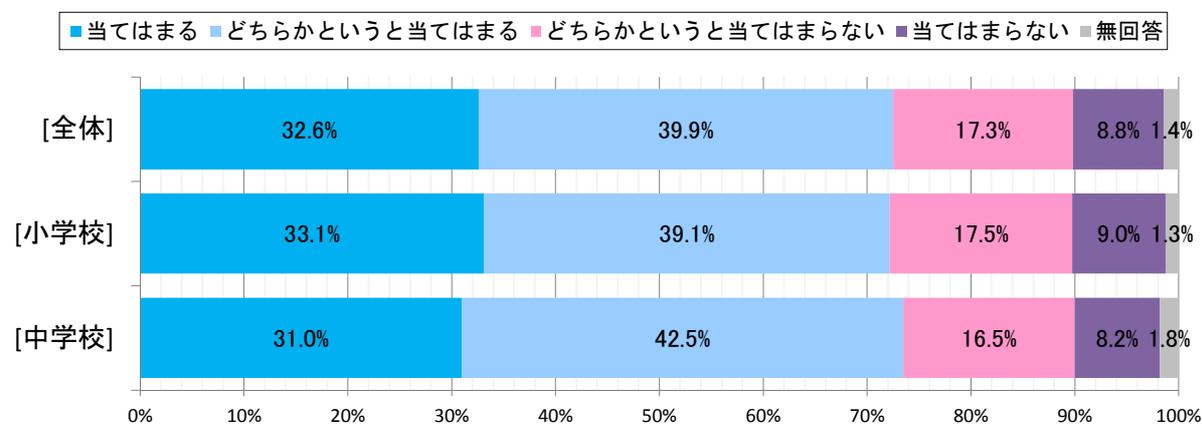
設問33 お子さんの通っている学校は、地域と連携している。



地域と連携していると感じている保護者は、全体では90.7%であり、小学校・中学校、一体型・分離型いずれも85%を超えている。

**[D. 品川区の教育施策について]**

設問39 学校選択制は良い制度だと思う。



学校選択制を良い制度だと思っている保護者は、小学校では72.2%、中学校では73.5%である。

**注記**

1. 数値の表記のない項目は、1%未満である。
2. 表中の「一体型」とは、施設一体型小中一貫校である「日野学園」「伊藤学園」「八潮学園」「荏原平塚学園」「品川学園」「豊葉の杜学園」の6校の合計である。
3. 表中の「分離型」とは、前項の施設一体型小中一貫校6校を除く小学校・中学校の合計である。